

Q7 オンラインでも開催できますか？

A シブパネルは対面開催のみのイベントです。オンラインだとこっそり録画できてしまうこと、画面に映らないところに別の人がいるかもしれないこと等を考えると、パネリストの安全のためオンラインイベントとして開催することはできないという結論になりました。

聴衆は全員会場にいてパネリストがオンラインで登壇するかたちなら開催可能だと思います。

Q8 当事者が体験談を語ることにしてもっと知識を深めたいのですが

A 一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジさんが2019年に発行された「あなたの声を届ける 依存症を経験した人やその家族が社会に向けて体験談スピーチを行う際のガイド」が、主催する立場の方にも、当事者の方にも、大変おすすめです。

ファイザープログラムの贈呈式でこの取り組みを知り、2021年11月に開催したオンラインセミナー「当事者の話を聴く前/する前に知っておきたいこと」では基調講演をいただき、大好評でした。本はこちらから買うことができます。



「あなたの声を届ける」
依存症を経験した人やその家族が
社会に向けて体験談スピーチを行う際のガイド

Q9 シブパネルはどんな人が主催できますか？

A 試行版シブパネルはNPO法人しぶたねが主催したり、各地のきょうだい会、病院等との共催の形で開催しました。今後も病院のスタッフ向けや学校の先生向け、企業の研修としてなど、さまざまな開催パターンが増えればと願っています。

登壇してくれるきょうだいの気持ちの継続的なフォローや、同じ立場の仲間や支援者とのつながりが生まれることを考えると、きょうだい会(大人になったきょうだいのピアサポートの場)に協力を仰ぐことをおすすめします。

Q10 「シブパネル」という名称を使用する場合の条件はありますか？

A パネリストの安心安全を第一に考えて開催する、シブリング(きょうだい)によるパネルトークを「シブパネル」という形で提案してきました。各地で「シブパネル」を開催いただけたらうれしいことですし、もちろん「シブパネル」という名称を使わなくても、この冊子の中の安心安全のための工夫を取り入れてくださったらうれしいです。

私たちや、各地の「きょうだい会」と手をつなぎ開催して下さる際はお気軽にお問合せください。

おわりに

最後に、モデレーターをさせていただいた立場から一言記させていただきます。

この役割で最初に意識したのは、誰が主役なのか、でした。シブパネルで最も大切なのはパネリストのお話です。モデレーターは、あくまでつなぐ役割で、気の利いたコメントを返そうとかお話をまとめようとして前面に出るべきではないと肝に銘じて臨みました。シブパネルを開催される方は、きょうだいさんたちを応援し、大切に思ってください。時には「こんなことを訊いて申し訳ない」「自分にこんな質問をする資格があるのか」と葛藤するかもしれませんが、あなたを信頼して、勇気をもって臨んでくださるパネリストの方々に報いるには、大切に聴かせてもらう以外なく、それこそが安心安全な場づくりへの第一歩です。

パネリストに質問する時、返ってくるのはいつも信頼の眼差しでした。会場を見渡すと、常に誠意と熱意と優しさで満ちていました。聴衆も時に涙されますが、その涙や顔きは、大切に受け止めたいというメッセージとなり、パネリストの心を守る一助になると信じます。大切な人生を語ってくれるパネリスト、その心を守ろうとする主催者、お話を誠意で受け止め、支援につなげていく聴衆の三者がひとつのチームになれば、安心安全な空気が作り上げられるはず。課題もたくさんありますが、みんなで互いへの誠意と信頼を積み重ね、更なる安心安全の場を目指していけたら幸いです。

NPO法人しぶたね プログラムディレクター
眞利慎也